

(成果) 泥状硫黄鉱の場合、流動層法では抽出液側に微細分が伴はれ、製品品位を低める事が予想された。

回転盤式円筒型向流連続抽出装置では、概ね順調に分離が進行する事を知つた。後者について実験を進める予定

3.2.6 題目 テルル金銀鉱石の浮遊選鉱

鮫島 昭

I 試料 始良郡山田鉱山産テルル金銀鉱

II 実験の方法

試料は鉱石粉碎機を用い、-100目篩に粉碎した。粒度分布は次の通り。

+100 目篩	0%
100~150	67%
150~200	18%
200~250	10%
-250	5%

この粉碎試料2匁を取り、次の条件で浮遊試験を行つた。

使用機械：京大式浮遊試験機

	第1回	第2回
パルプ濃度	40%	16%
I チル、ザンセート、カリ	25瓦/屯	タ
S. KK, 220	50瓦/屯	タ
炭酸ソーダ(無水)	1升/屯	タ
硫酸ソーダ	300瓦/屯	タ
P. H	8.5	タ

III 実験結果

区分	精鉱 収量	選鉱比	金		銀	
			品位	実收率	品位	実收率
原鉱	—	—	0.73	—	50	—
第1回試験	64	32.0	24.0	100	1600	100
第2回試験	33	60.5	33.0	72.6	2660	88
尾鉱	—	—	0	0	0	0

IV 結果の考察

小数の試験結果から推論するのは、乱暴かも知れぬが、この種の鉱石は容易に浮遊で処理し得るものと考える。

同様な結果は前田氏も得ている。

第2回の浮遊試験で実收率が低かつたのは、パルプ濃度が低かつた為と思う。

3.2.7 題目 県内工業用水の分析結果

(第一報)

鮫島 昭

本調査は工業用水調査の第一段階として主な河川水について行つた。

調査は工場で実際使用している河川水又は地下水について各時期に涉つて行うべきであるが、まづ県内全般の主な河川水を調査する事にした。従つて分析項目も各産業に適応する様に多く設けた。

河川名	採取年月日	蒸発残渣	P.H	比電導度	還元力	全硬度	永久硬度	鉄	アンモニア	硫酸根	クロールイオン	備考
米の津川	30. 2.28	87	7.0	74	2.0	1.3	1.2	0.08	以下 0.1	0.4	7.8	出水市
高尾野川	タ 3. 1	90	6.8	70	2.8	1.2	1.1	0.13	タ	0.2	9.0	高尾野
野田川	タ 3. 1	130	6.8	120	1.2	1.7	1.3	0.14	タ	0.3	11.5	野田郷
折口川	タ 3. 2	100	6.8	150	2.4	1.6	1.1	0.09	タ	0.4	18.0	折口
万瀬川	タ 2.23	81	6.9	100	1.8	1.4	1.3	0.09	タ	0.3	12.8	加世田市
大浦川	タ 2.24	93	6.8	150	1.6	2.0	1.8	0.12	タ	0.3	11.6	大浦
花渡川	タ 3.20	221	7.0	350	2.8	2.2	1.6	0.12	タ	0.6	76.0	枕崎市
加治佐川※	タ 3.21	8850	6.9	4000	10.2	78.4	54.7	0.12	タ	0.8	435.0	大川
馬渡川	タ 3.21	112	6.6	105	7.2	1.3	1.1	0.11	タ	0.3	18.0	御領
集川	30. 3.22	71	6.9	1000	1.6	2.6	1.5	0.10	タ	0.7	15.4	頤娃
新川(池田湖) (放水路)	タ 3.22	113	7.0	230	1.0	2.9	1.5	0.13	タ	0.4	10.4	頤娃十町
湊川※	タ 2.25	540	6.8	1000	2.6	4.4	3.2	0.10	タ	0.7	67.0	宮ヶ浜

河川名	採取年月日	蒸発残渣	P.H	比電導度	還元力	全硬度	永久硬度	鉄	アンモニア	硫酸根	クロールイオン	備考
八幡川	30. 2.26	92	6.9	58	1.8	1.0	0.8	0.11	以下	0.1	0.2	11.6 喜入山
永田川	2.26	111	6.8	105	1.0	1.5	1.2	0.09	タ	0.3	12.2 谷	鹿児島市
新川	2.27	70	6.8	110	1.1	1.2	0.7	0.10	タ	0.3	7.2	
甲笑川	2.27	181	6.8	105	0.9	1.4	1.1	0.12	タ	0.2	11.6	タ
水道水	2.27	180	7.0	100	0.8	1.9	1.2	0.10	タ	0.2	11.6	タ
思川	2.6	135	6.9	85	1.1	1.4	0.9	0.11	タ	0.2	9.6	重富佐
別府川	2.7	202	6.8	260	1.2	2.6	1.1	0.10	タ	0.5	45	帖佐
同支流	2.7	110	6.8	95	2.2	1.7	1.6	0.11	タ	0.3	7.8	タ
綱掛川	2.8	153	6.9	80	1.4	1.3	1.0	0.11	タ	0.2	9.6	加治木入
新川	2.9	240	6.9	90	1.0	2.4	1.4	0.10	タ	6.0	14.2	隼人
検校川	2.9	182	7.0	74	1.2	1.6	0.8	0.08	タ	0.5	13.4	敷根
桜島白浜(井)	3.6	403	7.0	1000	2.2	5.4	3.9	0.12	タ	0.7	15.4	西桜島
タ西道(井)	3.6	240	6.8	190	2.0	2.1	1.7	0.17	タ	0.4	18.8	タ
タ武(井)	3.6	140	6.9	350	1.8	3.5	3.0	0.10	タ	0.4	23.4	タ
カケヒ水膜	3.6	231	6.9	240	1.1	2.7	2.4	0.12	タ	0.4	20.8	タ
タ赤水(井)	3.6	247	6.9	320	1.0	4.9	4.6	0.10	タ	0.5	16.2	タ
水道水	3.6	80	7.0	105	1.0	2.3	1.3	0.10	タ	0.3	9.75	東桜島
本城川	2.10	200	6.9	95	1.2	2.4	0.95	0.15	タ	0.3	10.2	垂水町
高須川※	2.10	802	6.8	1600	3.6	7.5	6.0	0.13	タ	0.8	350	高須川
神の川	2.11	241	6.6	350	1.1	2.3	1.3	0.09	タ	0.5	45	神の川町
雄川(九配発電所)	2.11	70	6.8	52	0.8	0.8	0.5	0.10	タ	0.2	12.8	根占
小田川	2.17	100	6.7	44	1.0	1.5	1.3	0.11	タ	0.1	10.4	内浦
広瀬川	2.17	212	6.7	100	1.1	0.9	0.7	0.11	タ	0.4	25.8	タ
肝付川	2.18	163	6.8	230	5.2	1.8	1.6	0.09	タ	0.4	12.2	鹿屋市
串良川	2.18	191	6.8	58	1.1	0.9	0.8	0.11	タ	0.2	8.4	串良町
田原川	2.19	123	6.9	74	1.0	1.2	0.4	0.10	タ	0.3	10.2	大崎田
菱田川	2.19	145	6.8	95	1.4	1.1	1.0	0.10	タ	0.3	8.4	菱田
安楽川	2.20	190	6.9	66	1.1	1.0	0.9	0.10	タ	0.2	9.8	安楽
前の川	2.20	70	6.7	80	2.0	1.3	0.8	0.12	タ	0.13	12.8	志布志

(備考) ○ 蒸発残渣、鉄、アンモニア、硫酸根、クロールイオンはp.p.m

○ 還元力は試料100c.cに対するN/100 KMnO₄ の消費量 (c.c.)

○ 硬度はドット硬度

○ 比電導度の単位はumho/cmで表した

○ (井)は井戸水

※ 表中加治佐川、高須川は海水混入の為クロールイオン、比電導度等が高くなつたものと考えられる。

※ 渋川は温泉水が混入している。